令和２年度「ふくしまの道徳教育」vol.3

福島県教育委員会
令和３年１月29日発行

道徳のとびら

地域や家族と地域の宝物について一緒に考えていく。学校教育全体を通した道徳教育の実践を紹介します。

皆さんは、檜枝岐歌舞伎をご覧になったことはありますか。この歌舞伎は、２７０年以上前から続く地域の伝統芸能です。長く、受け継いでいくために大切にしてきたものが「結（ゆい）の精神」です。この精神について、体験的に学ぶ機会を道徳教育に取り入れています。檜枝岐村立檜枝岐中学校が、地域とともに取り組んできた実践を紹介します。

ふるさとに学ぶ道徳教育

【檜枝岐歌舞伎】
村に伝わる歌舞伎は地域の宝物です。この歌舞伎を学ぶことを通して、地域に根付く**互いに支え合い、助け合って守ってきた「結の精神」**を受け継いでいきます。

【檜枝岐歌舞伎】

【総合的な学習の時間】
歌舞伎の演目で、お清めの意味もある「三番叟（さんばそう）」を、地域の方から学びます。

【特別の教科　道徳】

郷土の伝統と文化の尊重

郷土を愛する態度

中学３年生では、歌舞伎を継承している方から、歌舞伎を創り上げる思いについてお話を聞き、「伝統を守る」ことについて考えました。

地域社会の一員としての自覚

【村民大運動会（学校行事）】
小中学校、そして地域が一体となって実施します。「結の精神」は、村の行事など様々な場面で感じることができます。

【文化祭（学校行事）】
文化祭の発表では、お世話になった地域の方へ感謝の気持ちを込めて演じています。

見て、読んで、感じて、みんなの思い、考えを
～道徳推進校の取組から～

お家の方と一緒に考える

二本松市立石井小学校

１年生の道徳科授業に保護者が参加し、「家族愛」について、一緒に考えを深めました。主人公が家族のために毎日、水を運ぶ時の思いを考える場面では、子どもが主人公役、保護者が主人公のお母さん役となり、役割演技を通して話し合いました。お母さん役の「雨の日も風の日も、毎日、水をくんでくれてありがとう。大変じゃなかった？」という温かな言葉に、大きくうなずく子どもの笑顔が印象的でした。授業に参加した保護者は「指名されるので、いつも以上に本気で考えました。自分とは違う多様な考えを聞けて、とても面白かったです。」と話していました。学校と家庭がつながる一歩を、確かに踏み出しています。

新型コロナウイルス感染症に対する差別や偏見のない学校生活のために

南相馬市立鹿島中学校

シトラスリボンプロジェクトは、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐとともに、感染者や回復した人、濃厚接触者、医療従事者などへの差別や偏見をなくすことを目的として、愛媛県で始まった運動です。この運動に関する新聞記事を読んで共感した生徒会役員が中心となり、鹿島中学校でも運動に取り組みました。スローガンを考え、それをパスケースに入れ、全校生徒と教職員がカードを身に付けて学校生活を送っています。

これからも毎日の生活や様々な場面において、差別や偏見なく、誰もが安心して学校生活を送れるよう、みんなで協力していきたいと思います。

互いのよさを尊重し、新たな価値観を創り上げる子どもの育成～広野町の取組

広野町は、今年度から２年間、福島県教育委員会の委託を受け、子ども園、小中学校、そして家庭・地域の連携を生かして、人権教育の実践的研究に取り組んでいます。令和２年１１月２７日には広野小学校において、人権教育研究発表会として授業を公開しました。

２学年道徳科
「ひとりひとりをたいせつに」

「人権教育と道徳教育のつながり」

広野町立広野小学校

人権教育は全ての教育活動の基盤です。広野町では、特に、子どもの「感」（安心感、期待感、困り感、必要感、達成感）でつくる教育活動に重点をおき、人間関係づくりや安心感を高める学習環境づくりにも力を入れてきました。これらが「互いの価値観を尊重しながら考え、議論する」道徳科の授業にもつながっています。

公開授業では、話しやすい雰囲気（安心感）のもと、自分の考えと友だちの考えを比べたり、実際の生活場面を思い出しその時の自分の気持ちを伝え合ったりする姿が見られました。子どもの「感」でつくる日々の授業実践や学級経営を通して、互いを尊重し合う態度が育まれていると実感しています。